

新コーナーに展示される小島氏の著書や化石



奥出雲多根自然博物館

古生物学者 小島氏ゆかりの品展示

恐竜研究 学びに来て

山陰中央新報

2020年8月21日(金)

「恐竜の小島博士」として国内外に名が知られた古生物学者・小島郁生氏（1929～2015年）ゆかりの品々を紹介する展示コーナーが23日、奥出雲多根自然博物館（奥出雲町佐白）にオープンする。小島氏は同博物館の名誉館長も務め、日本の恐竜研究の第一人者だった。同館では寄贈された膨大な著書や化石を整理し、小島氏が生涯をささげた恐竜研究を入館者に伝え、展示品を活用する。

（清山遼太）

北九州市出身の小島氏は、国立科学博物館で地学研究部長を務め、世界各地で恐竜の調査、発掘に尽力した。日本初の恐竜骨格標本の組み立てを行い、著書

「恐竜のはなし」などを出版。古生物学研究に多くの功績を残した。恐竜を中心に古生物の展示に力を入れる奥出雲多根自然博物館は、小島氏に指導を依頼し、2011年4月にリニューアルオープンが実現。夜でも恐竜の展示などが楽しめる「ナイトミュージアム」が新たに設置された。

これを縁に、小島氏は同館の運営方針に信頼を寄せ自らの著書や発掘した化石などを次々と寄贈。没後も遺族が寄贈を続け、同館が小島氏を顕彰するため、コーナー開設を企画した。

新コーナーでは、小島氏が発掘したアンモナイトの化石や、研究の際に使用していた眼鏡、著書や参考文献約2600点などを展示。小島氏の経歴と業績を紹介するパネルやモニターも設置する。

同博物館の宇田川和義館長（72）は「これを機に小島博士が研究した古生物を学びに訪れてほしい」と望む。新コーナーは23日午前11時からオープンし、入場無料。同日午後2時から東京学芸大学名誉教授の松川正樹さんの講演会も開かれ、先着30人程度の聴講を予定している。